



東洋大学

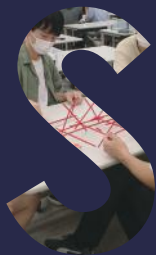
Toyo University Award Excellent Educational Activities



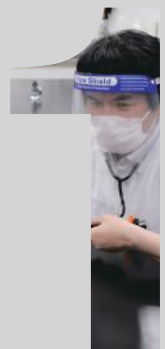
東洋大学

優秀教育活動賞

受賞者紹介



Toyo University
Award Excellent
Educational Activities



優秀教育活動賞とは



東洋大学優秀教育活動賞は、2017(平成29)年度に新設された制度です。

本学で実施されている優れた教育活動(各学部の授業科目および授業に伴う教育活動)を企画実施し、

学生に大きな教育効果を与えた専任教員を表彰し讃えるとともに、

FD活動等を通じて、優れた取り組みを全学に普及させるためにスタートしました。

この表彰制度が学内のすばらしい取り組みに光を当てるきっかけとなることが期待されます。

2021年度受賞者

氏名	所属	タイトル
河本 英夫	文学部 哲学科	「哲学と科学A」
古田 直肇	文学部 英米文学科	「英語学演習III A/B」
高橋 圭	文学部 史学科	「歴史学入門」
大江 啓賢 高野 聡子 緒方 登士雄	文学部 教育学科	「教育学演習II・III」「特別支援学校教育実習I・II」 — 特別支援学校往還型教育実習および「東洋大学 特別支援教育の集い」の企画・運営 —
竹内 美紀	文学部 国際文化コミュニケーション学科	ICT・AIを駆使したオンライン授業・教育 — DX・グローバル時代の先駆的授業の実践 —
佐藤 崇 児玉 俊介 濱田 高彰 角南 俊介 水谷 徳子 近藤 裕子 澤口 隆 西村 光史	経済学部 経済学科	「ゼミナールIA」 — 主体性開発メソッド『タクナル』を活用した初年次アクティブ・ラーニングの実践 —
谷釜 尋徳	法学部 法律学科	「全学総合L(オリンピック・パラリンピックI)」 「全学総合M(オリンピック・パラリンピックII)」
高橋 豊美 室松 慶子 成岡 恵子 吉田 愛 ショートジェイムズダニエル グリーンハロルドスティーブン ウォードアーロンフランス	法学部 法律学科・企業法学科	法学部グローバルリーダー育成プログラム (Global Leader Fostering Program, Faculty of Law)
森本 久雄 山川 聡子 横田 祥 吉野 隆 窪田 佳寛 山田 和明	理工学部 機械工学科	「機械工学序論I」
シュ ジャウェイ	理工学部 応用化学科	「応用化学入門」
坪田 建明 中村 香子	国際学部 国際地域学科	学部講義における、オンラインを活用した海外大学等との共同授業 「International Finance」「Participatory Development」
長谷川 輝明	生命科学部 生命科学科	「危険物管理概論」
李 沁潼	生命科学部 応用生物科学科	「基礎生物学演習」
嶋崎 博嗣	ライフデザイン学部 生活支援学科	「保育内容の指導法(健康)」
范 自然	総合情報学部 総合情報学科	総合情報学部SGUルーム運営事業および学部グローバル化推進事業
宮越 雄一	食環境科学部 健康栄養学科	「解剖生理学」「解剖生理学実験」

ご挨拶



2021年度もコロナ禍という環境の中で奮闘しながらの授業運営を余儀なくされました。厳しい条件の中にありながら、学生たちが確かな知識を身に付け、深い洞察を重ね、そして主体的に学びを深めていけるようにと配慮された教育実践が各キャンパスで展開されました。たくさんの教育実践の中から、優秀教育活動賞を受賞された先生方に心より感謝とお祝いを申し上げます。素晴らしい教育活動の概要をここに紹介し、広く共有し、一層豊かな教育活動が繰り広げられることを願っています。

選考委員長・学長 矢口 悦子



受賞者紹介

文学部
哲学科

教授

河本 英夫



「哲学と科学 A」



受賞授業・教育プログラム

哲学と科学は、同じ出発点から別様な展開をへて形成されてきた知の形態である。哲学は、言語を中心とした議論の組み立てを行い、科学は「測定」という身体行為を介した仮説的な数学理論を中心とした議論の組み立てを行っている。哲学は原理への問いを中心に置き、科学は現実の圧倒的な多様性への問いを中心に置く。

オンラインの授業では、履修者が何度も繰り返し視聴することができるように「動画」を事前に収録して、ACE上の「コンテンツ」にアップし、また事柄を精確に捉えることができるように、問いを立てて考察するスタイルで、PPTに要点をまとめ、ACE上の「課題」にアップした。各回とも、課題を立て、それに履修者が解答するスタイルを設定した。スレッドにある質問には、随時回答し、授業を双方向的なものとした。

受賞者からのコメント

ACEの活用の仕方をもう一段階上げることができないかいつも試みていた。学習用の補助教材をアップしても、おそらく履修者は読まないと予想しておかなければならない。それを見込んで、課題設定を身近な問いから、順次高度な問いへと展開していくような「展開可能性」のある経験を経ていくことができる組み立てを考えてきた。知識ではなく、経験の展開に力点を置いた授業を心掛けた。私は、ごく普通の配慮を行った授業を組み立てただけである。賞に値すると告げられて、正直に言えば、「驚いている」。





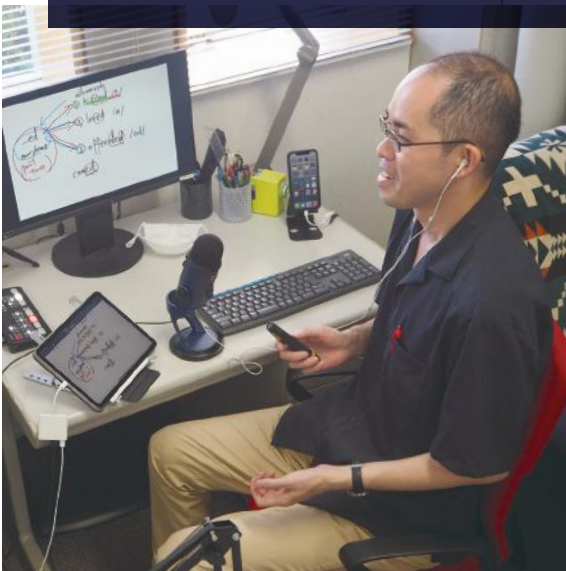
受賞者紹介

文学部
英米文学科

准教授
古田 直肇



「英語学演習Ⅲ A / B」



受賞授業・教育プログラム

英語学演習は、英米文学科の3年次選択必修科目です。

本授業は、George Yuleの“The Study of Language”を教科書に指定し、この教科書を通読することで英語という言語の性質について理解を深めることを主な達成目標としています。ToyoNet-ACEを活用して予習チェックテストや復習テストを実施し、学生の自己学習を促すとともに、CommentScreenというアプリを活用して双方向性のあるオンライン授業・ハイブリッド授業を実現しました。また、ATEM MiniというスイッチャーやiPadを活用することで見やすい板書をスムーズに提示できるようにするなど、授業を下支えする機器の整備にも力を入れました。

受賞者からのコメント

今回の受賞をとっても嬉しく光栄に思います。コロナ禍の中、試行錯誤や失敗を繰り返しながら、学生と一緒に授業を作り上げたというのが実感です。コロナ禍の中でも学生たちはモチベーションを失うことなく課題に取り組み、対面授業の時と変わらぬ熱量で授業に参加してくれました。新しい形態になやかに遅く対応してくれた学生たちがいてくれたからこそ、私も授業に全力を傾注することができました。オンライン授業の実施を通して得られた知見を対面授業にも還元していければと思っています。





受賞者紹介

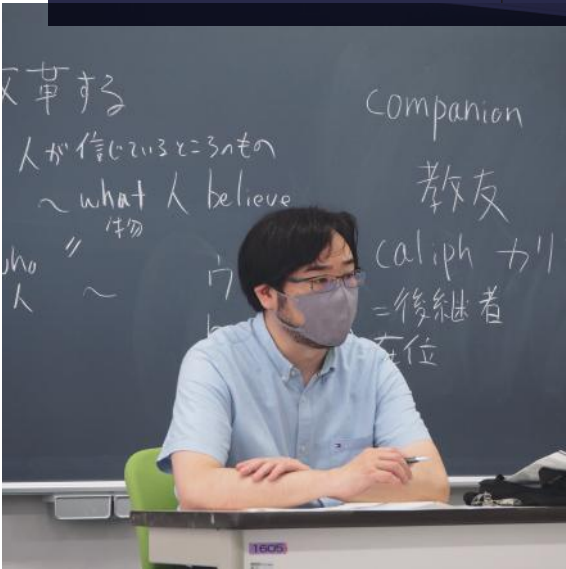
文学部
史学科

助教

高橋 圭



「歴史学入門」



受賞授業・教育プログラム

「歴史学入門」は1年生の向けの必修科目であり、史学科の専任教員がそれぞれの研究内容を紹介する輪講形式で進められます。各時代や地域ごとの研究の手法や動向について一通りの知見を得ると同時に、史料から実証的に史実を明らかにするという歴史学の根幹となる概念や方法論の理解を目指す授業です。また、博物館見学研修など、現物の観察や実地での体験を通じて、学生が主体的に学習に取り組むための工夫も盛り込んでいます。

受賞者からのコメント

この度の受賞につきまして心より感謝申し上げます。授業全体のコーディネートを担当する立場での受賞となりましたが、この科目は史学科の専任教員全員が担当する授業であり、受賞者のみならず史学科の先生方全員の真摯な取り組みが実を結んだ結果であると考えています。依然として行動に大きな制約があった状況で、いかにして学生に主体的な学びの機会を提供できるのかを考えて授業を設計・実施しましたが、今回この取り組みを評価いただけたことを大変に嬉しく思います。





受賞者紹介

文学部
教育学科

大江 啓賢 (准教授)

高野 聡子 (教授)

緒方 登士雄 (教授)



「教育学演習Ⅱ・Ⅲ」

「特別支援学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」

— 特別支援学校往還型教育実習および「東洋大学 特別支援教育の集い」の企画・運営 —



受賞授業・教育プログラム

『特別支援学校往還型教育実習』は、特別支援学校教諭免許状取得希望学生を対象に大学講義の理論と現場体験との学びの往還により、特別支援教育に携わる教員に求められる力の基礎を習得することを目的としています。現場で活躍する卒業生が集う『特別支援教育の集い』への参加や「特別支援学校教育実習Ⅱ」授業内の『特別支援学校教育実習報告』の聴講は卒業生や先輩との交流、助言を通して学びを深める機会でもあります。また、『特別支援教育の集い』は卒業生と在学生相互の意見・情報交換等の機会にもなっています。

受賞者からのコメント

今回の受賞は、実習を受け入れてくださる特別支援学校の皆さん、プログラムに参加し『特別支援学校の教師になる』努力を重ねる在学生、『特別支援教育の集い』を楽しみにしている卒業生等、関係するすべての方の活動が認められた結果と思います。2017年度開始の本プログラムは2023年度より正規科目となりますが、2021年度は、入学生が正規科目化1期生となる学年、『特別支援教育の集い』が10回目を迎えた節目の年です。受賞を機に、今後も関係する皆さんにとって「意義ある活動・時間・学び」に繋がる努力を重ねたいと思います。このたびはありがとうございました。





受賞者紹介

文学部
国際文化
コミュニケーション学科
准教授
竹内 美紀



ICT・AIを駆使したオンライン授業・教育

— DX・グローバル時代の先駆的授業の実践 —



受賞授業・教育プログラム

「児童サービス論」(司書資格科目)

デジタル時代の司書としての能力取得のために、多様な新プログラムを取り入れました。具体的には、札幌中央図書館のサービス課長によるオンライン講義(公共図書館のコロナ期の取り組み)、米国のデジタル書籍サービスNetGalleyの体験、図書館総合展へのオンライン参加(3D図書館体験など)、オンライン絵本会による実践(Zoomによる絵本読み聞かせと公衆放送権講義)を通し、デジタルネイティブに向き合う心構えとスキルを体得させました。

受賞者からのコメント

図書館に足を運び、選書した本を持参する授業なのに、コロナで図書館にすら入れず、授業構成をがらりと変える必要に迫られました。文学部対象の資格科目とあってDX苦手な文系学生が多かったのですが、若いだから、とにかく体験して慣れなさいと励まし続けました。この2年は試行錯誤の連続でしたが、今回の評価をいただいたことで、ただ対面に戻るのではなく、この経験を生かしたハイブリッドな授業を目指したいと思います。





受賞者紹介

経済学部
経済学科

- 佐藤 崇 (講師)
- 児玉 俊介 (教授)
- 濱田 高彰 (助教)
- 角南 俊介 (准教授)
- 水谷 徳子 (准教授)
- 近藤 裕子 (教授)
- 澤口 隆 (教授)
- 西村 光史 (教授)



「ゼミナールⅠA」
 — 主体性開発メソッド
 『タクナル』を活用した初年次
 アクティブ・ラーニングの実践 —



受賞授業・教育プログラム

経済学部経済学科では、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向であるジュネリック・スキルを育成するために開発されたプログラム『タクナル』を活用し、学科の教育目標に沿ってアカデミック・スキルを身に付けることも狙い部分的に内容を追加変更しながら、入学後最初の学期の必修科目「ゼミナールⅠA」を実施しています。この授業は、担当教員が固定ではないため、新しく担当する教員がアクティブ・ラーニングの授業運営を学ぶ場にもなっています。

受賞者からのコメント

身近なテーマを題材にした多様なプロジェクトを通じてチームで議論し問題解決する経験が、学生のその後の学修姿勢に良い影響をもたらしているという手ごたえを感じています。本教育プログラムは、導入期の2017～2020年に大学より予算上の支援をいただきました。また、『タクナル』開発元の株式会社リアセックからは導入当初から継続してさまざまなフォローアップを受けています。関係各位にこの場を借りて御礼申し上げます。





受賞者紹介

法学部
法律学科

教授

谷 釜 尋 徳



「全学総合L（オリンピック・パラリンピックⅠ）」
「全学総合M（オリンピック・パラリンピックⅡ）」



受賞授業・教育プログラム

「全学総合—オリンピック・パラリンピック講座—」は、東洋大学のオリンピック・パラリンピック教育の一環として、2015年度から2021年度まで継続的に開講された授業です。全学部の学生を対象に、7年間で延べ人数にして約9,200名の学生が受講しました。授業の形式は、東洋大学の先生方を中心とするオムニバス形式です。スポーツの分野に限らず、法学、観光学、栄養学、心理学、物理学、平和学など、多様な分野の先生方が、それぞれの専門を下敷きにオリンピック・パラリンピックをテーマとした講義を展開しました。

受賞者からのコメント

この度は、名誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。私自身はコーディネーターに過ぎませんが、授業の担当を快く引き受けて下さった先生方や、サポートして下さった事務局の方々のおかげで、継続的に講座を運営することができました。2020東京大会は世界的なパンデミックの中で開催されましたが、この授業を受けた在学生・卒業生が大会ボランティアとして、あるいは選手として活躍する姿に勇気づけられました。この場を借りて、ご関係の皆様には厚く御礼申し上げます。





受賞者紹介

法学部
法律学科

高橋 豊美 (教授)
室松 慶子 (教授)
成岡 恵子 (准教授)
吉田 愛 (助教)

企業法学科

ショート ジェイムズ ダニエル
(教授)
グリーン ハロルド スティーブン
(准教授)
ワード アーロン フランシス
(契約制外国語講師)



法学部グローバル リーダー育成プログラム (Global Leader Fostering Program, Faculty of Law)



受賞授業・教育プログラム

国際的な法律問題や国際関係に関する知識と、外国語を使う進路が選択できる語学力とを兼ね備えた人材を育成します。学生は、早期からの留学も視野に入れて、1年次で4技能の集中指導を受けて英語で演習授業に取り組める力を身につけます。2年次では、国際的なキャリア形成を展望できるように、国際関係や国際社会での働き方も学びます。4年間を通して英語による演習科目を履修し、英語で論文が書けるようになることを目指します。

受賞者からのコメント

資格取得などスキルの伸長を主眼とする語学教育に留まらない、グローバルリーダーとして活躍できる人材の素養の醸成に資する教育を目指し、各英語教員の専門や強みを活かしたカリキュラムの展開を工夫してきました。その取り組みが評価されたことは大変に喜ばしく、また、さらなる発展に向けて励みになります。このプログラムの企画と実施に多大なるご支援を賜った法学部の先生方、教務課職員の皆さまに心より深く感謝申し上げます。





受賞者紹介

理工学部
機械工学科

森本 久雄 (教授)
山川 聡子 (教授)
横田 祥 (教授)
吉野 隆 (教授)
窪田 佳寛 (准教授)
山田 和明 (准教授)



「機械工学序論Ⅰ」

受賞授業・教育プログラム

機械工学序論Ⅰは、大学1年生向けの初年度教育の必修科目として開講しています。新入生は必ずしもモノづくりに興味があるわけではなく、また、高校と大学での授業方法の変化に戸惑う学生もいるため、機械工学と社会の繋がりや、スタディースキル、技術者倫理、グループワークによるモノづくりなど、大学の授業に必要なスキルや機械工学を学ぶ動機づけを与える内容となっています。2013年度に開講してから今では機械工学科の初年度教育として重要な科目になっています。



受賞者からのコメント

この度は、栄誉ある優秀教育活動賞をいただき、心より感謝申し上げます。本科目の成果は、これまで担当された先生方の創意工夫の積み重ねが評価されたものと考えています。2021年度はコロナ禍でも学生達が対面でグループワークできるようスケジュールを工夫し、オンデマンドでも理解しやすいよう各教員で授業資料や動画を作成しました。その結果、授業評価アンケートでは、モノづくりやグループワークに対して高い評価を得ました。今後も、学生達が機械工学の学びを円滑にはじめられるよう、より一層精進する所存です。





受賞者紹介

理工学部
応用化学科

助教

シュ ジャウエイ



「応用化学入門」



受賞授業・教育プログラム

高等学校では化学を履修していなかった、または勉強成果に不安がある学生が多数にいます。「応用化学入門」は、必ずしも化学に強くない学生にも化学に興味を持ち、理解できるようにという意図で、2021年度から新たに設けられた教科であった。その教育目標は、苦手意識を持つ学生が専門科目の化学に取り組む際の基礎学力を付けることである。この科目を履修することにより、高校から大学への橋渡しがよりスムーズになり、ほかの専門科目の学修効果の向上ができた。

受賞者からのコメント

今回の受賞をとっても光栄に思います。「応用化学入門」は新設の科目であり、2021年度はコロナウイルス感染症の影響で、オンラインで授業を行ったため、学生の勉強結果に対しかなり心配しました。そこで、応用化学科の先生方から様々なアドバイスをいただいて、自分も授業の内容や方式を工夫し、よりわかりやすく、学生が興味を持てるように努力しました。結果として、授業評価アンケートの結果により、90%以上の学生から好評を貰い、やりがいを実感しました。さらに、学生が自分の授業を履修することにより、苦手な科目が楽しく勉強できるようになるのは一番嬉しいです。これからも、東洋大学の教育と学生の成長に尽力する所存です。





受賞者紹介

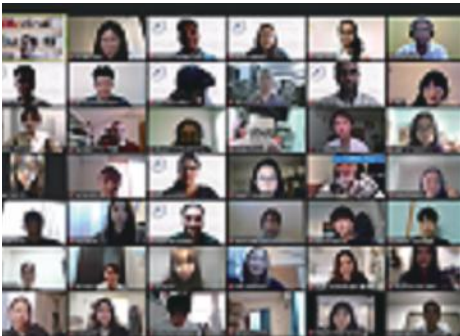
国際学部
国際地域学科

坪田 建明 (教授)
中村 香子 (教授)



学部講義における、オンラインを活用した 海外大学等との共同授業

「International Finance」 「Participatory Development」



受賞授業・教育プログラム

東洋大学の学生と、海外の大学の学生が世界のさまざまな場所から参加するオンラインによる共同授業を実施した。「International Finance」では、日本学生26名およびインド(12名)を中心とした計8か国から19名が参加し、コロナ禍における世界各国の金融政策、コロナ禍で大きな被害を受けた産業や企業、コロナ禍に成長した産業や企業などについてグループワークとワークショップをCOIL (Collaborative Online International Learning) でおこなった。また、UMAP (University Mobility in Asia and the Pacific) を基盤としたOEP (Online Exchange Program) としておこなった「Participatory Development」では、東洋大学生20名(うち4名が留学生)にインドネシア、メキシコ、フランスの大学からの学生が参加し、アフリカ農村における貧困解消をテーマにグループワークでプロジェクトの提案を実施した。どちらの授業においても、学生はそれぞれの背景の違いによる考え方の違い、価値観の違い等について、お互いに理解を深めながら議論をおこなった。

多様性に富んだ受講生による議論の結果、教員が想定していなかったような思いがけないアイデアが出ることも多く、学生のみでなく教員にとっても刺激的な授業となった。また、日本人学生にとっては授業内で英語を用いたコミュニケーションを常におこなうことができた。

受賞者からのコメント

コロナ禍によって広まったオンライン授業の利点を活かした授業形態にチャレンジすることができたと思います。この実現は、これまでに東洋大学の国際化に尽力してきた国際教育センターの皆さまの蓄積と国際学部の先生方の支えがあったからこそであると感じています。また、受講生がこちらの期待にしっかり応えてくれたことが何より嬉しかったです。これからも、さらに新しい取り組みにチャレンジして教育の在り方を刷新し続けていきたいと思っています。





受賞者紹介

生命科学部
生命科学科

教授

長谷川 輝明



「危険物管理概論」



受賞授業・教育プログラム

「危険物管理概論」では、3年次の研究室演習や、4年次の卒業研究に向けた安全教育の一環として、危険物の取扱法や火災への対処法を教えています。また「実験安全講習会」も半年に一度開催しており、実験事故発生後の連絡体制の周知や、実験事故ケーススタディなどを行っています。この両者を履修・受講させることで、実験における安全意識の向上・維持を図っています。またこれらの学習を通じ、危険物取扱者(甲種)の資格取得もサポートしています。

受賞者からのコメント

今回の受賞を大変光栄に思います。自然科学系学部における卒業研究では、危険な試薬や可燃性物質を使用するため、これらに起因する実験事故の発生を完全に防ぐことは困難な状況です。ただ、学生の安全意識の醸成により事故の可能性を減らすとともに、事故が発生した際の適切な対処法を教育しておくことで、事故の被害を大きく軽減できるはずです。教育課程を怪我なく修了してもらうことを目標に、これからも安全教育を行っていきます。





受賞者紹介

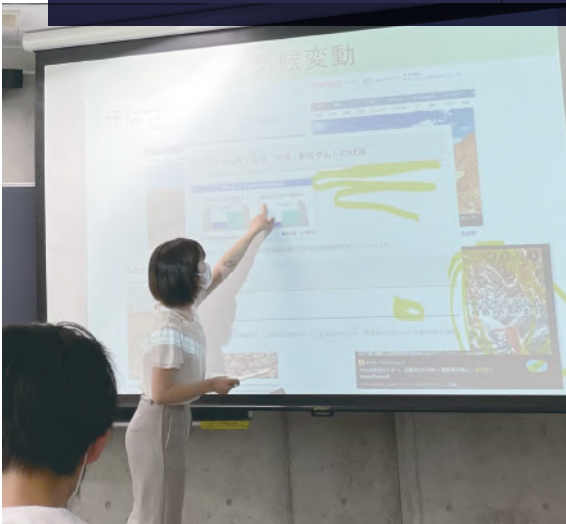
生命科学部
応用生物科学科

助教

李 沁 潼



「基礎生物学演習」

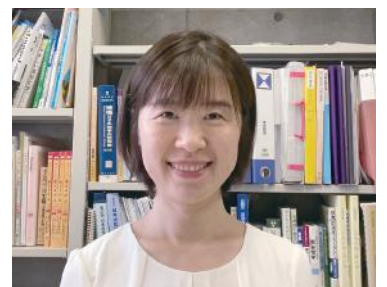


受賞授業・教育プログラム

本授業は学科の基礎科目である生物学の一環であり、履修生は文系出身の学生や暗記が苦手な学生が多い。そういう学生に複雑な生命現象をしっかりと理解してもらうために、授業を「解説」、「トピック」、と「演習問題」を組み合わせた形で設計した。生物の形態や構造にはその生命機能や環境への適応等が反映されており、「何でこうなるの?」と常に質問を挙げながら学生の思考を促している。「トピック」では、最先端の研究紹介や、環境や食料等の問題を取り上げる等、これからの未知と挑戦を示しながら内容を展開している。「演習問題」では、小テストで学修効果をフィードバックしている。本授業は、基礎知識の修得や論理的思考の養成に貢献していると考えられる。

受賞者からのコメント

この度、2018年度を受賞に続き2度目の受賞となり、大変光栄に存じます。初年次の教育科目として、高校から上がってきたばかりの学生の不安を解決するために、授業の内容や進行についてよく学生の声を聴き、授業内容を改善し続けてきました。また、周りの先生からも貴重なご助言を頂いており、授業の質の向上に大いに繋がります。これからも、さらに経験を積み、生命科学分野の専門教育にも貢献したいと思います。





受賞者紹介

ライフデザイン学部
生活支援学科

教授

嶋崎 博嗣



「保育内容の指導法（健康）」



受賞授業・教育プログラム

「保育内容の指導法（健康）」は、主に“運動遊び”を手段にして、子どもの全面発達をいかに引き出すのかを体験を通して考える授業である。具体的には、保育・幼児教育はただ遊んでいるのではなく、そこに意図性や計画性があることを確認しつつ、様々な遊びを体験する。また、コマ・ベーゴマといった伝承遊びを体験し、技能習得や他者との関わりで生起する感情を振り返り、その発達の意味を考えた。加えて、オリ・バラ研究助成*の成果を踏まえ、健常児と障がい児の触れ合い遊びから多様性理解について考えた。本授業の総まとめは、半期に亘ってグループで考案した「運動遊びプログラム」の発表である。テーマ設定の妥当性、ねらいと内容の整合性、保育者援助の適切性等、多様な観点からディスカッションを行った。

*東洋大学オリンピック・パラリンピック特別プロジェクト研究助成「ダイバーシティ実現に向けた幼児期からの教育プログラムの開発－障がい者スポーツを活用した障がい理解教育の幼児向け実践プログラム開発と展開－」（代表者：南野奈津子）

受賞者からのコメント

この度の受賞、大変光栄に存じます。本授業は、多くの方々からの支えによって成立しており、改めて感謝申し上げます。コロナ禍の影響（アリーナの人数制限と対面・非対面の双方向授業の展開）で、授業運営は大変難儀しました。しかし、学生の姿に勇気づけられたとも感じています。本授業の配当学年は2年生です。2020年の入学以来、非対面授業が続き、2021年秋学期の本授業で、ようやく専攻内の友達と直接的に触れ合うことができる喜びを口にする学生が印象的でした。新しい“気づき”や“学び”を得ると、学生の目が輝きます。そうした“気づき”や“学び”を育み続けられるよう、さらに授業内容をブラッシュアップしていこうと改めて考えています。





受賞者紹介

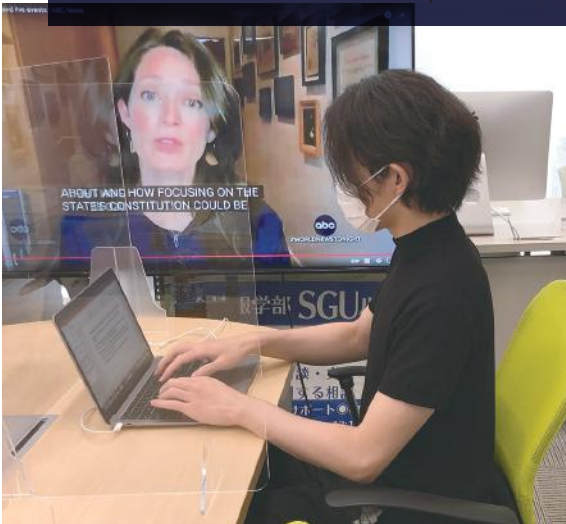
総合情報学部
総合情報学科

助教

范 自然



総合情報学部SGUルーム運営事業 および学部グローバル化推進事業



受賞授業・教育プログラム

総合情報学部のグローバル化教育活動の一環として、「SGUルーム」を開設しており、日本語・英語・中国語のネイティブTA (Teaching Assistant) と教員を常駐させ、多彩な外国語学習や異文化交流、学生支援に取り組んでいる。英語・中国語の語学学習に加えて、留学生への就学相談や指導、海外留学を希望する学生への学習支援も行っている。SGUルーム事業は、学生の自習的学習を促進し、異文化交流を通じて広い視野を持つグローバル人材の育成を目指していく。

受賞者からのコメント

栄誉ある東洋大学優秀教育活動賞をいただき、光栄に存じます。上記の紹介にあるように、SGUルーム事業は私個人の活動ではなく、学部全体の施策として、多くの先生方にご協力いただきながら、TAの皆さんの献身的なサポートや職員方の支援があってこそ、このような成果をあげることができました。SGUルームの運営責任者・現場管理者として活動に携わらせていただき、私個人として得るものもたくさんありました。此度の受賞を、学部の教育活動への評価として受け止め、今後より一層精進して参ります。





受賞者紹介

食環境科学部
健康栄養学科

教授

宮越 雄一



「解剖生理学」 「解剖生理学実験」



受賞授業・教育プログラム

解剖生理学は、医学的な側面のある学問であり、正常な構造と機能を学ぶことにより、健康維持のための食事摂取の考え方など、管理栄養士に必要な広範囲にわたる基礎科目、専門科目を理解する上で、重要な役割を担う基礎的な科目である。また、国家試験においても、解剖生理学の内容は出題されることから、様々な基礎科目、専門科目と連携が必要となる科目でもある。健康栄養学科の目指す教育目標は「高度な専門的知識・技術を持ち幅広い分野で活躍できる管理栄養士の育成」であり、解剖生理学がその教育目標達成のための学習や知識の基盤となっているので、解剖生理学の目標達成が、健康栄養学科としての教育目標達成への貢献度は極めて大きい。

受賞者からのコメント

この度は、2021年度東洋大学優秀教育活動賞をいただき、ご推薦くださいました食環境科学部の皆様方に厚くお礼申し上げます。解剖生理学は、講義を1年生の時に、実験を2年生の時に学習します。国家試験に出題されるため、4年間にわたり継続的な学習が必要となってくる科目となります。常日頃の学習が国家試験合格の鍵を握っておりますので、引き続き、国家試験合格および卒業後の生涯学習にも結びつくような授業、実験を行って参りたいと存じます。



